



## “時代を拓く技術・地域を支える技術”

(社)日本技術士会北海道支部／北海道技術士センター  
青年技術士協議会 会長

技術士（建設部門） 椿 谷 敏 雄

### 1. 社会貢献の「青年の役割」？ それって何？

来る9月15日の全国大会において、青年技術士協議会（以下、青技協という）は第5分科会を受け持つこととなりました。指定された分科会テーマはズバリ「青年技術士の役割」です。

さて、この「社会貢献における青年技術士の役割」というテーマ、一体何のことでしょうか。

そもそも「社会貢献に青年も、少年も、壮年もない」はず。また、「社会的要請に対する取り組みそのものが社会貢献」という思いもあります。だいたい「社会貢献のために何をすべきか」などといった漠然とした取り留めのないことを考えている暇があるなら、何か個別のテーマに打ち込んだ方がよほど社会のためになります。このような自問自答を繰り返し、“はたして分科会のテーマは妥当なのか”、はなはだ疑問を感じることもありました。が、ともかくにも技術士としての資質向上のため、「社会貢献」というテーマに正面から取り組むこととしました。

そこで、この紙面をお借りして、現在、私たちが企画している分科会の内容について、その主旨やねらいをご説明させていただきます。

### 2. 第5分科会のキーワードは「先人」と「交流」

さて、私たち青技協の特徴は、他の研究会とは異なり特定のテーマを持たないということです。そこで、自由な発想で（好きな様に）内容を企画できるという長所を生かし、新しい取り組みによる新しい形の分科会とすることにしました。

キーワードは「先人」と「交流」です。

「先人」とは、今まで「時代を拓いてきた先人によ

る技術貢献」をあらためて再認識することです。また、「交流」とは文字どおり全国交流です。技術士の地方6支部には北海道の青技協のように青年部の会があります。全国の青年技術士が現在取り組んでいる実践事例を発信しあうことにより、お互いが触発されることを期待したものです。こうして第5分科会の内容を表-1のように、「過去」、「現在」、「未来」の3部構成としました。

既に、本部の協力のもと、全国各支部への正式要請を行ったところです。果たして私たちの熱意は伝わったのか。手応えは十分感じました。全支部からの出席による「完全制覇」、により全国交流を是非実現したいところです。

以下、具体的内容について説明します。

表-1 第5分科会のプログラム概要

第I部 <過去の認識>	9:30~10:00
『北海道における先人技術者の貢献』	
・北海道青年技術士協議会による報告	
第II部 <現代の交流>	10:00~11:30
『現代の技術者の取り組み』	
・東北支部青年技術士懇談会	
・中部支部青年技術士会	
・近畿支部青年技術士懇談会	
・北陸支部青年技術士懇談会	
・中四国支部（青年部代表）	
・九州支部福岡青年技術士ネットワーク	
・北海道支部青年技術士協議会	
・本部青年技術士懇談会	
第III部 <未来を語る>	11:30~12:30
『未来のためのディスカッション』	

### 3. 第I部「過去の認識」(まずは時代背景)

第I部は、北海道において時代を切り開いてきた先人技術者(又は技術)を紹介するパートです。

社会貢献と言うならば、過去にも、それぞれ時代を代表する「技術貢献」があったはずで、時代には時代ごとに社会的要請があります。そして時代を支えてきた技術には社会を拓いてきた価値があります。ここでは北海道の先人技術を拾い集め、あらためて技術による社会貢献を認識します。

既に、この先人技術者の資料については第1次収集を終え、30名ほどの先人技術をまとめました(図-1)。今後、皆様のご協力をいただき、さらに資料を充実させていきたいと考えています。

### 4. 第II部「現代の交流」(次に地域特性)

第II部は全国交流です。全国には様々な分野で技術士が活躍しています。北海道のように建設部門に大きく偏ることも少ないようで、こうした様々な分野の技術士による実践事例により、その地域の社会的要請を読み取ることができます。全国交流の意義はまさにここにあります。地域特性を通じて、地域の社会要請を知ることです。

社会貢献のためには、その時代やその地域での社会的要請、すなわち「何を求められているのか」を

理解することが必要です。そして、自分の持つ技術を社会的に位置付けることによって、はじめてその社会的要請に応えることが可能となります。

### 5. 第III部「未来を語る」

さて、そもそも北海道のこの100年は、まさに激動の20世紀でした。拓地殖民といったいわゆる「拓殖」を旗頭とした開発の時代であり、道路、農地開発、治水が重点事業3分野でした。このため北海道における20世紀の社会的要請は必然的に社会基盤の整備であり、「先人の技術貢献」を整理した結果は、いきおい建設部門が多くなります。その是非については様々な評価があろうかと思いますが、過去の技術貢献はその時代の要請として素直に評価すべきでしょう。大切なことはこれからの北海道の未来を語ることです。

今後は、環境、医療やバイオなど新しい分野においてますます社会的要請が高まります。こうした時代の社会的要請を認識するためにも、全国大会では、「時代」と「地域」の中に、しっかり自からの位置づけができればと期待しています。

これからの北海道を切り開く新しい技術の創出ため、技術士としての社会貢献が今まさに求められています。

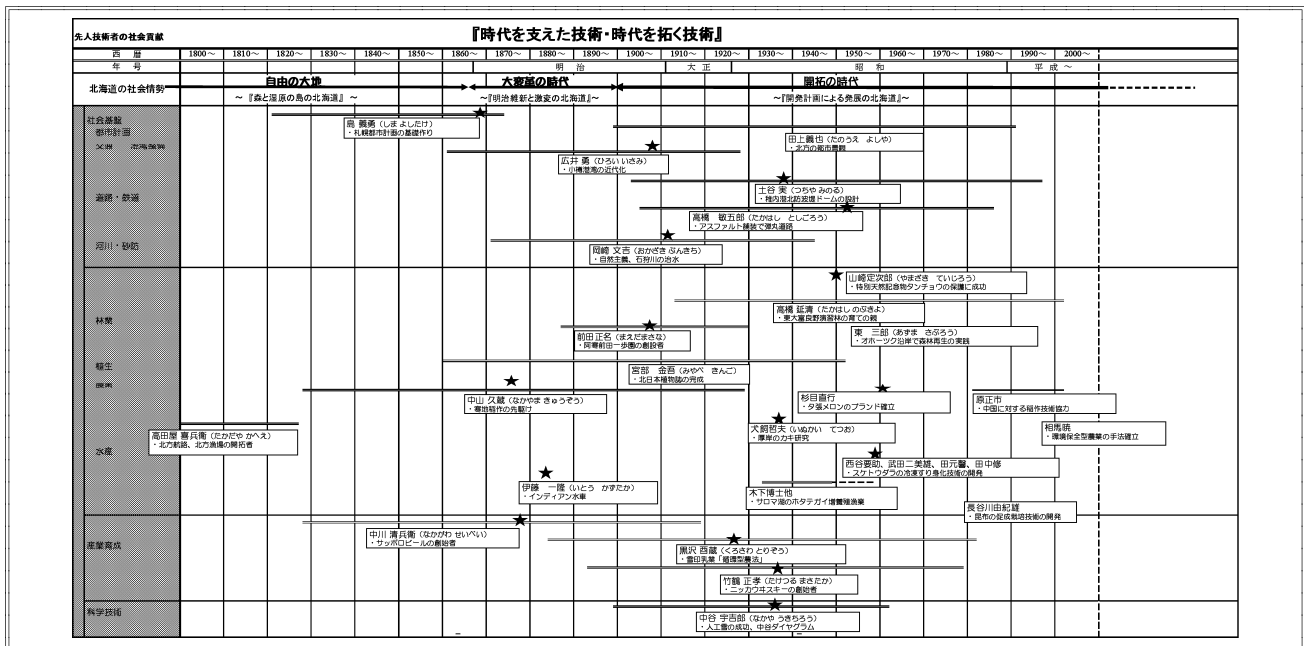


図-1 先人技術者の貢献(年表形式にまとめた資料です。イメージとしてご覧ください。)